

The 41st Annual Meeting of the Japanese Society for Apheresis

第41回日本アフェレシス学会学術大会

会期 2020年10月23日・24日

会場 東京ディズニーシー・
ホテルミラコスタ

大会長 山路 健 [順天堂大学医学部
膠原病内科 教授]

アフェレシスは未来を変える
～難病に挑む～



4-0

一般演題 (口演) 循環器・LDL 吸着

重症下肢虚血を発症した透析患者にEVT (EndoVascular Treatment) とLDLアフェレシス併用療法で改善した一例

西の京病院 内科¹⁾、西の京病院 臨床工学科²⁾
高田史門¹⁾、野口幸²⁾

症例 : 80 代女性

既往歴 : 2 型糖尿病、狭心症

主訴 : 両下肢冷感

経過 : X-9 年糖尿病性腎症で血液透析を導入。X-1 年 6 月頃より両下肢冷感を自覚し、両足背動脈触知不良を認めたため循環器内科受診。両足趾に発赤・潰瘍所見を認め、Peripheral Arterial Disease (PAD) と診断され下肢動脈造影を施行された。造影所見として膝窩動脈以遠は完全閉塞であった。Percutaneous Transluminal Angioplasty (PTA) による治療を勧めたが、侵襲的治療を拒否されたため LDL アフェレシスによる治療を行った。治療前の SPP は Lt:Dorsal/Plantar 22/14mmHg、Rt:Dorsal/Plantar:15/14mmHg であったが、LDL アフェレシス施行後の SPP は Lt:Dorsal/Plantar 25/27mmHg、Rt:Dorsal/Plantar 37/26mmHg と改善傾向となり、両足趾所見も改善を認めた。しかし、X-1 年 9 月に再度左足趾の発赤・潰瘍所見に増悪を認め、SPP も低下していた。そのため LDL アフェレシスのみでの加療は限界と考え、外科的デブリドマンに左大腿膝窩動脈ステント留置を施行した。その結果 SPP で Lt:Dorsal/Plantar 46/31mmHg まで改善したが、左足趾の肉芽形成所見が乏しく、その後 SPP 低下を認めていた。X 年 3 月に下肢動脈造影で左前脛骨動脈の閉塞所見を認めたため、同部位に EVT を施行し、LDL アフェレシスを再開したところ明らかな創部の改善所見が見られ、SPP で Lt:Dorsal/Plantar 42/35mmHg と血流も改善し完治に至った。

考察 : 透析患者には末梢循環不全による重症下肢虚血が頻回にみられる。その治療に対しては EVT やデブリドマンに加えて、LDL アフェレシスによる微小循環改善が有効であると考えられた。

A case of combination therapy of EVT and LDL apheresis in a dialysis patient with critical limb ischemia.

Nishinokyo Hospital Internal Medicine¹⁾, Nishinokyo Hospital Department of clinical engineering²⁾

Shimon Takada¹⁾, Miyuki Noguchi²⁾